

「地域大国の文化的求心力と遠心力」2009年度第2回研究会

「ユーラシア地域大国の神秘主義をめぐって」北大(20-12-2009)

ロシア神秘主義から インド・ナショナリズムへ

杉本良男

(国立民族学博物館)

序. ロシア神秘主義

Madame Blavatsky (1831-91)



ロシア語表記

Sinnett	Fadeef	Dolgorouky	Andrew	Erivan	
Guenon	Fadeeff	Dolgorouki	Andre	Erivan	Nicephore
Ryan	Fadeyeff	Dolgorouky	Andrey	Erivan	
Neff	Fadeef Fadeyef	Dolgoruky Dolgorouky	Andrez	Erivan	
Ransom	Fadeef	Dolgorouki	Andre	Erivan	Nicephore
Williams	Fadeev	Dolgoruki	Andrez	Erivan	Nicephore
Meade	Fadeyev	Dolgorukov	Andrey	Erivan	Nikifor
Fuller	Fadeyef	Dolgorouky	Andrei	Yerivan	Nikifor
Campbell	Fadeyev	Dolgorukov		Yerivan	Nikifor
Cranston	Fadeyev	Dolgorukov	Andrey	Erivan	Nikifor
Johnson	Fadeev	Dolgorukii	Andrei	Yerevan	Nikifor
G-Clark	Fadayev	Dolgorukov		Erivan	Nikifor

マダム・ブラヴァツキー Madame Blavatsky

- 1831年Ekaterinoslav(現Dnipropetrovsk)生
ロシア=ユリウス暦7月31日グレゴリオ暦8月12日深夜
- 本名Helena Petrovna von Hahn
Helena/Elena/Yelena
- 父Peter Alexeyevich von Hahn(軍人)
- 母Helena Andleyevna von Hahn /de Fadeeva
(作家Zenaida R-va)
- 1848(49)年結婚 Helena Petrovna Blavatskaya
- 1875年神智(学)協会Theosophical Society
- 1891年ロンドンで没

華麗な系譜

- 父方ドイツ・メクレンブルクの貴族
Count Rottenstern-Hahn家の系譜
ウクライナ、ペテルブルク、アストラハンなど転々
- 母の父方ファージェーフde Fadeev 家(平民)
母方祖父Andrei Mikhailovich de Fadeev
- 母の母方ドルゴルーキー家
Dolgirukii/Dolgorouky/Dolgoruky/Dolgorukov
母方祖母Helena Pavlovna de Fadeev / Dolgorukii
Count Sergei Yulievich Witte/Vitte=MZS
母の死でサラトフの母方の祖父母と同居

神秘主義

- 母方祖母の父

Prince Pavel Vasilievich Dolgorukii, ?-1838

厳格遵守団(薔薇十字系のフリーメイソンリー)

The Rites of Strict Observance,

Johann Gottlieb von Hund, 1754

- 中世錬金術・オカルティズムへの関心

図書室の文献をあさる

パラケルズス、クンラート、アグリッパなど

- 異教のアジアHeathen Asia

1846年チフリス(トビリシ)に移る

友人Prince Alexandr Golitsyn, フリーメイソンリー

結婚

- Nikifor Vassilyevich Blavatsky, 1809-?
イェレヴァン州副知事(アルメニア)
1848年7月7日説/ 1849年説
- 処女妻説
年齢差22歳、しかし夫は70歳くらいと吹聴
神聖化されたのちの私生児論争に関わる
- 出奔
クルド族長Sahar Ali Bek (Ogli)とアララト越えの経験
いったん祖父母の元へ
その後黒海を越えてコンスタンティノーブルへ

ヴェールにつつまれた25年 Veiled Life

- 聖女かボヘミアンか
1848/9年出奔から1873年アメリカ行きまで
世界を広く放浪
ハーシシ、オペラ歌手との私生児？
- 神秘主義
Paulos Methamon (エジプトの魔術師)
D.D.Home (欧米で高名な霊媒)
ロシアで霊媒として降霊会 seance
- 大師モリヤ
1851年ロンドンで偶然出会う？

2. Theosophical Society



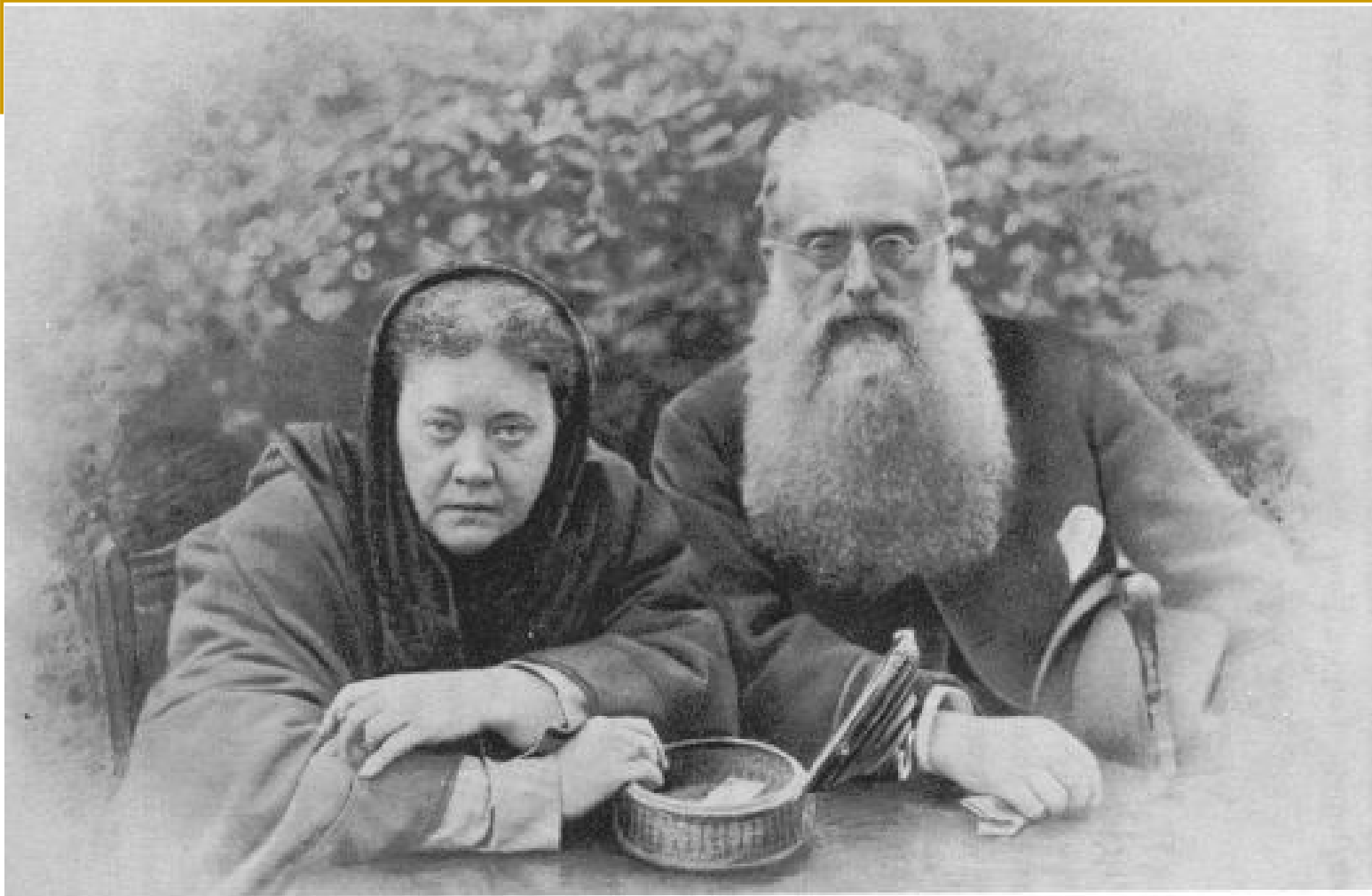
神智(学)協会

Headquarters, Adayar



マダム・ブラヴァツキーと オールcott大佐

- ハイズヴィル事件
1848年3月31日スピリチュアル記念日？
Hydesville Rapping/Rochester Knocking
1850年代の心霊主義spiritualismブーム
- エディ兄弟
セーレム魔女裁判(1692)の生残りの子孫
ChittendenのGreen Tavernでセアンス
- 歴史的邂逅
1874年ジャーナリスト”Colonel” Olcottと
霊媒女性Madame Blavatsky との出会い



*To the Aryan Theosophical Society, of New York.
With H. P. B.'s & H. S. O.'s good wishes
London, October, 1888.*

Madame Blavatsky (1831-91) & Olcott (1832-1907), 1888



Banyan Tree, Adayar, Madras

神智協会

- 神智協会 Theosophical Society
1875年ニューヨークで創設
Olcott, Blavatsky ほか17・8名のサロン
- 70ヶ国に支部、3万人余？、分派が拡大
- 歴代会長

1875-1907	Colonel Olcott	1832-1907
1907-1933	Annie Besant	1847-1933
1933-1945	George S. Arundale	1878-1945
1946-1953	C. Jinarajadasa	1875 -1953
1953-1973	Nilakanta Sri Ram	1889-1973
1973-1979	John B S Coats	1906-79
1980-	Radha Burnier	1923-



Radha Burnier, 2007

神智

- “Theosophy”(神智(学))
"theo(神)+sophia(叡智)"
「隠された神性の内的直観による認識」
- 古代の智慧・根源的な神の叡智への回帰
真理に優る宗教はない
There is no religion higher than Truth
- 偶然の産物
エジプト研究会グループ
心霊主義spiritualismのネットワーク
- 陰謀？
「ルクソール・ヘルメス主義同胞団」
(HBL: Hermetic Brotherhood of Luxor)

影響

- アダヤール本部（インド、マドラス）
- アメリカ支部（パサデナ）
- United Lodge of Theosophists（アメリカ）
- 人智学協会（ルドルフ・シュタイナー）
- 星の教団（クリシュナムルティ）
 - ・秘教占星学（アリス・ベイリー）
 - ・アイ・アム運動（ガイ・バラード）
 - ・クロウリー（1891年生、マダムの生れ変り）
 グルジェフ、ウスペンスキー
 - ・アイルランド文芸復興運動（イエイツ）
 - ・スクリャービンからエルヴィス・プレスリーまで
- ニュー・エイジ・ムーヴメントの祖

3. ロシア、中国、インド



HPB



Master Moriya



Swami Dayananda

ロシアの心霊主義Spiritualism

- 1854年Allan Kaldecの弟子たち
ロシアに心霊主義を持ち込む
 - 1871年D.D.Homeペテルブルク訪問
 - Aleksandr Aksakov, Pioneer Spiritualist of Russia
HomeがAksakovの親戚と結婚
HPBにDolgirukii王子は偉大なメスメル主義者
 - 1874年フランスの霊媒Bredif
Prof. N.A.Wagnerが*Revue de l'Europe*創刊
 - 1882年Rebus誌ーカルデック流の心霊主義が流行
-

マダム・ブラヴァツキーとロシア

- Vsevolod Sergeevich Solovyov (1849-1903)
1884年パリでHPBに会う、HPBの本音を暴露
The Priestess of Isis. (1895)
- Sergei Yulievich Vitte(1849-1915)
HPBのボヘミアン生活を暴露
The Memoirs of Count Witte. (1921)
- 神智協会ロッジ
叔母N.A.Fadeevが心霊主義者を結集させた
80年代に神智協会のロシア・ロッジがつくられる
- ロシアのスパイ説

チベットの大師

- マダム・ブラヴァツキーのチベット行
 - 1852/5?一度目失敗、マーリー少将の証言
 - 1856/7タタールのシャーマンとの出会い
 - 1867チベット滞在、大師のもとで修行 (7年間?)
- 大師モリヤ、大師クート・フーミ
 - 実在の人物か、妄想の産物か
- 1850年代のチベット探検
 - 1896-1910ヘディン、1897,1904河口慧海など
 - 1910年代のAlexandra David-Neelの探検
- カシュミール藩王コネクション
 - 藩王Duleep Singhとの親交?

マダム・ブラヴァツキーとチベット

- 東方への憧憬
 - 全くの妄想とはいえない生い立ち
- アストラハンでの体験
 - 父の赴任地
 - モンゴル系カルムイキア人(オイラート人)
 - チベット仏教徒
- アルメニア・イエレヴァンでの体験
 - 夫の赴任地
 - アララト越えでトルコに到達

インド・ナショナリズム

- ネオ・ヒンドウイズム Neo-Hinduism
インド・ナショナリズムと改革ヒンドウー教
Vivekananda、Dharmapalaなどと離合集散
- アーリヤ・サマージとの離合集散
Dayananda Sarasvati (1824-83)
1875 Arya Samaj、1879協会吸収、1883分裂
- さまざまなナショナリズム
Vivekananda, Dayananda, Dharmapala
それぞれ普遍宗教主張、しかし対立へ

国民会議派と神智協会

- 国民会議派(Indian National Congress)
1885年創設、A.O.Humeは会員
インド側は地方限定
神智協会が全インド・ネットワークをつくりだした
- アニー・ベサントAnnie Besant
アイルランドからインドへ、Home Rule (自治)
1917-9国民会議議長、ガンディーが後継
- ガンディーとネルー
ガンディーの菜食レストラン探しから神智協会と関係
父ネルーは一時協会員、家庭教師が協会員

結. ナショナリズムの外部性



共犯関係

- 外部化した内部と内部化した外部の共犯関係
植民地エリートとオリエンタリストの合作
インドのナショナリストと神智協会の関係

- 故郷喪失者のナショナリズム

- ・遠隔地ナショナリズム Long-Distance Nationalism

- ・ディアスポラ・ナショナリズム Diaspora Nationalism

[アンダーソン『比較の亡霊』]

[Brubaker Rogers. (1996) *Nationalism Re'frame'd: Nationhood and the National Question in the New Europe*. Cambridge UP.]

[Filiz Tutku Aydin, 2007, *Diaspora Nationalism as a Social Movement: The Case of Crimean Tatar Communities in the USSR.*]